

令和5年度第3回研究全体会

第1部 ワークショップ「主体性」の定義 (川中子登志雄校長)

第2部 「リーダー・イン・ミー」の紹介 (FCEJ 高橋広光氏)

【第1部】 ワークショップ「主体性の定義」

1 はじめに 「主体性」とは？ (5分)

○スティーブン・R・コヴィー博士の定義の確認

○第1回講師松尾英明先生 「自己決定とその決定に責任をもつ」態度

2 ブレイン・ストーミング (10分)

「主体的な児童の姿」と「それを引き出す教員の役割」

について、個々に考えできるだけ多く書き出す。

「宿題を自分でする子」とか、
難しく考えず、どんどん出して
くださいね！



みんな真剣

3 グループ協議 (15分)

個々に出したものを、「学力向上部」「特別活動部」「LIM部」の仲間と共有し、疑問点など出し合いながら、それぞれの考えを確かめ合う。グループでまとめを行い、色別の付箋に記入する。



LIM部



特活部



学力向上部

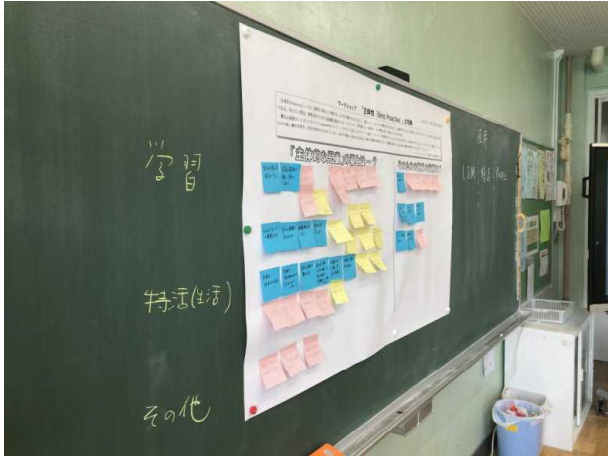
これはどうかな?というのは、よく
話し合ってみてください。最低でも
10個以上出してくださいね！



4 今日のまとめ（5分）

グループでまとめた意見を、黒板の大きなシートに貼っていく。その際、大まかに「学習面」「特活（生活）面」「その他」に分類しながら張り出していく。

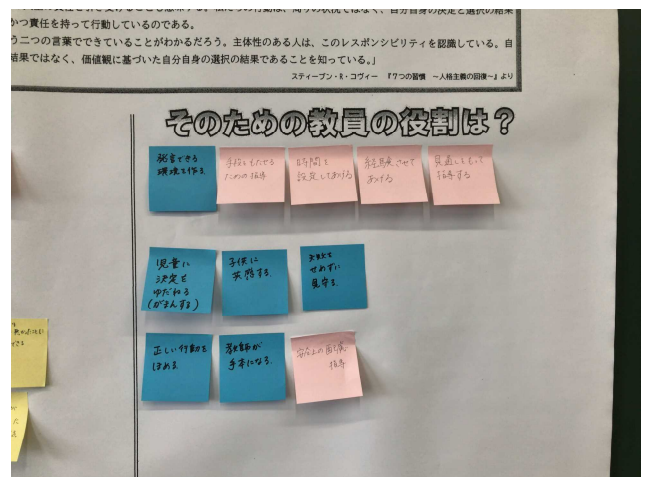
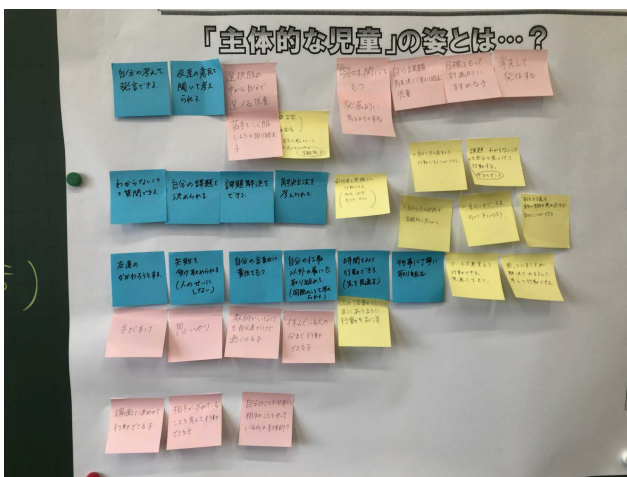
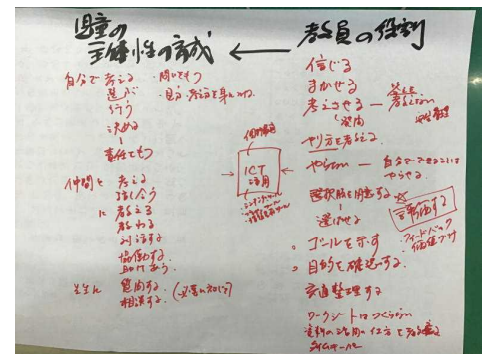
各部ごとに青、黄色、ピンクの付箋を使っているので、後から振り返ることができるようにした。



校長より

「ぼんやりしているものや、モヤモヤしているものが、この方法で「とりあえず」出していくと、だんだん見えてきます。ブレイン・ストーミングという手法です。私も4月に自分でやってみました。」

「この研究は、この右側（教員の役割）を考えることです。そのために、児童の主体的な姿が明確になっていないと進めません。今日は時間の関係でそれぞれのイメージを集めただけで終わってしまいましたが、この後、委員長と3人の部長に KJ 法的にまとめていただき、またそれを見てみんなで話し合っていきます。今年の研究は、このような話し合いの積み重ねです。」



〈付箋の色〉

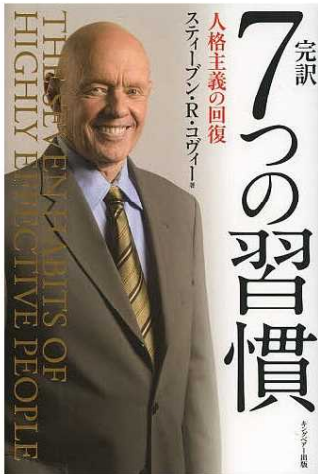
青：学力向上部

黄色：特別活動部

ピンク：リーダー・イン・ミー部

【第2部】「リーダー・イン・ミー」の紹介

フランクリン・コヴィー・エデュケーション・ジャパン 高橋広光氏



アメリカの学者スティーブン・R・コヴィー博士の著書「7つの習慣」は30年経っていまだに売れ続けている
原題 "The Seven Habits of Highly Effective People" 「効果性の高い人々に共通している7つの習慣」といい、米国の建国以来 200 年の間に書かれた成功に関する文献の調査から、成功に関する共通点をまとめたもの。

「リーダー・イン・ミー」は、一部のエリートを育てるのではなく、「全ての人々がリーダーになれる、全ての人々がリーダーシップを発揮できる」という意味の、世界で 6000 校以上で導入されている学校文化創造プログラム。(日本では現在 60 校弱)

ノースカロライナ州 AB コムス小学校 サマーズ校長が「7つの習慣」のワークショップに参加。これが学校・地域改革に効果的であると判断し、コヴィー博士に相談して、協働でプログラムを作って実践。現在、アメリカの Social Emotional Learning プログラムの最も効果的なプログラムの一つ



「7つの習慣」子ども向け

- 第1の習慣「自分で考えて行動する、自分に責任をもつ」
- 第2の習慣「ゴールを決めてから始める」
- 第3の習慣「大事なことから今すぐに」
- 第4の習慣「Win-Win を考える みんなハッピー」
- 第5の習慣「わかってあげてからわかってもらう まず相手の話を聞く」
- 第6の習慣「力を合わせる みんなでかんだほうがかうまくいく」
- 第7の習慣「自分をみがく バランスがだいじ」

ある行動が継続的に行われるようになる → 「習慣」になる
その行動が集団で行われるようになる → 「文化」になる
文化として定着させる重要な要素 → 「共通言語化、環境整備」

- 最も効果の高い変革は自分自身から変わることに
インサイド・アウトによる学校改革
- どのように判断して行動すべきかの指針となる「7つの習慣」

